HONDA
汎用製品

エンジン
GXV160
取扱説明書

お買いあげありがとうございます。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

eSPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

はじめに

●この取扱説明書は、お買いあげいただいたエンジンの正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用の前にこの取扱説明書を良くお読みください。

安全に関する表示について
本書では、作業者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

取扱説明書について
この取扱説明書は
●エンジンを操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
●エンジンを貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
●紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

●なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

e-SPEC ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

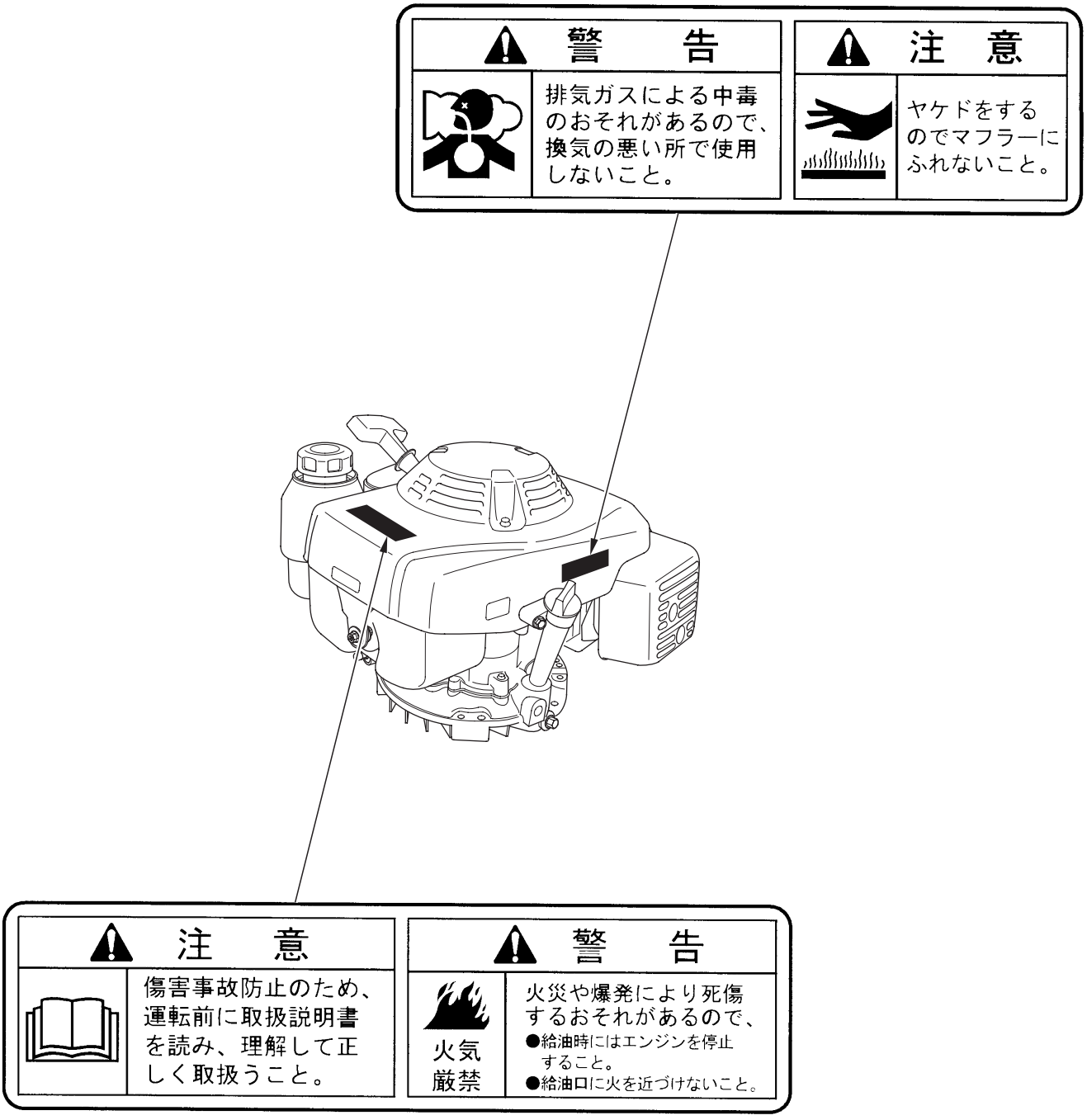
e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

LEMA

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

●安全ラベル

Hondaエンジンを安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。
安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



※安全ラベルと貼付位置はタイプにより一部異なる場合があります。

安全にお使いいただくために

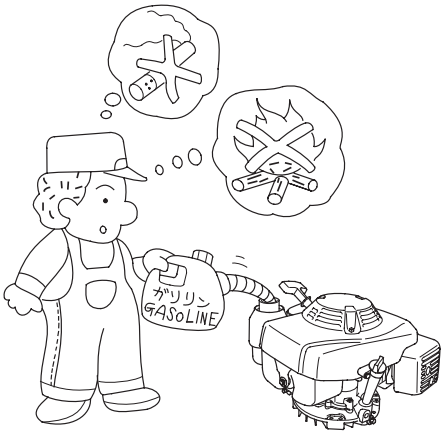
これだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンを始動する前に点検しましょう」(5〜7 頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機の運転操作をさせないでください。また、子供には絶対にさわらせないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- カバーやラベル類、その他の部品を外してエンジンを操作しないでください。また弊社がみとめない改造または使用はしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 過労や飲酒、薬物を服用してエンジンを使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- エンジンを作業機などに搭載する場合は、安全性、耐久性を確保するために高度な技術が必要です。搭載する際は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。
- エンジンの日常点検、整備を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理してからご使用ください。

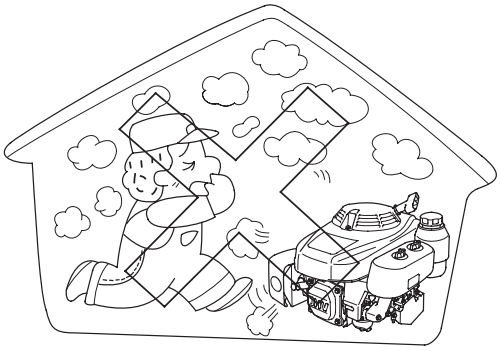
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。



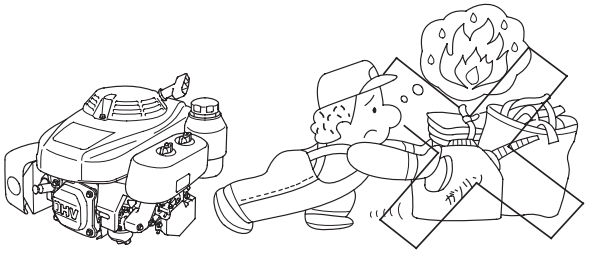
- 燃料をこぼさないように注意し、所定のレベルを超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。

警告

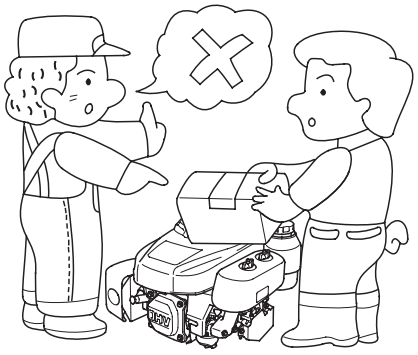
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などの換気の悪い所では使用しないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には有害な成分が含まれています。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
- 建物や遮へい物などで風通しの悪い場所、また排気ガスがこもる場所などでも有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがありますので使用しないでください。



- 思わぬ転倒事故を防止するためにエンジンは水平で安定した場所に設置してください。また火災を防止するために建物およびその他の設備から１ｍ以上離して設置してください。
- エンジンのまわりには、わらくず、紙くず、木くずなどの燃えやすいものや、油脂類、石油製品、火薬などの危険物を近づけないでください。火災や爆発の危険があります。



- 運転中はもちろん、使用しないときも、エンジンの上部に物を置かないでください。変形したり、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 運転中や停止直後はエンジン本体やマフラなどに触れないでください。
  熱によりヤケドをするおそれがあります。
- 運転中は高電圧コードやプラグキャップに触れないでください。感電のおそれがあります。

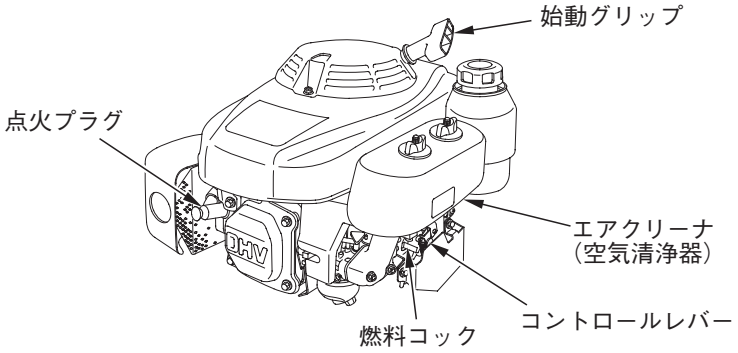


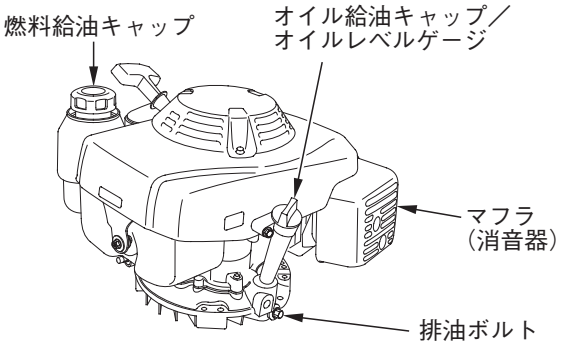
エンジンを始動する前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。

各部の名称と点検箇所

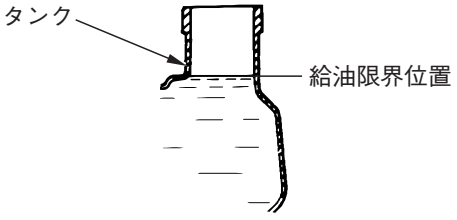




ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
ガソリンを補給するときは
- エンジンを停止してください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。



《点検》
エンジンを水平にし、燃料給油キャップを外し、注入口より燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。

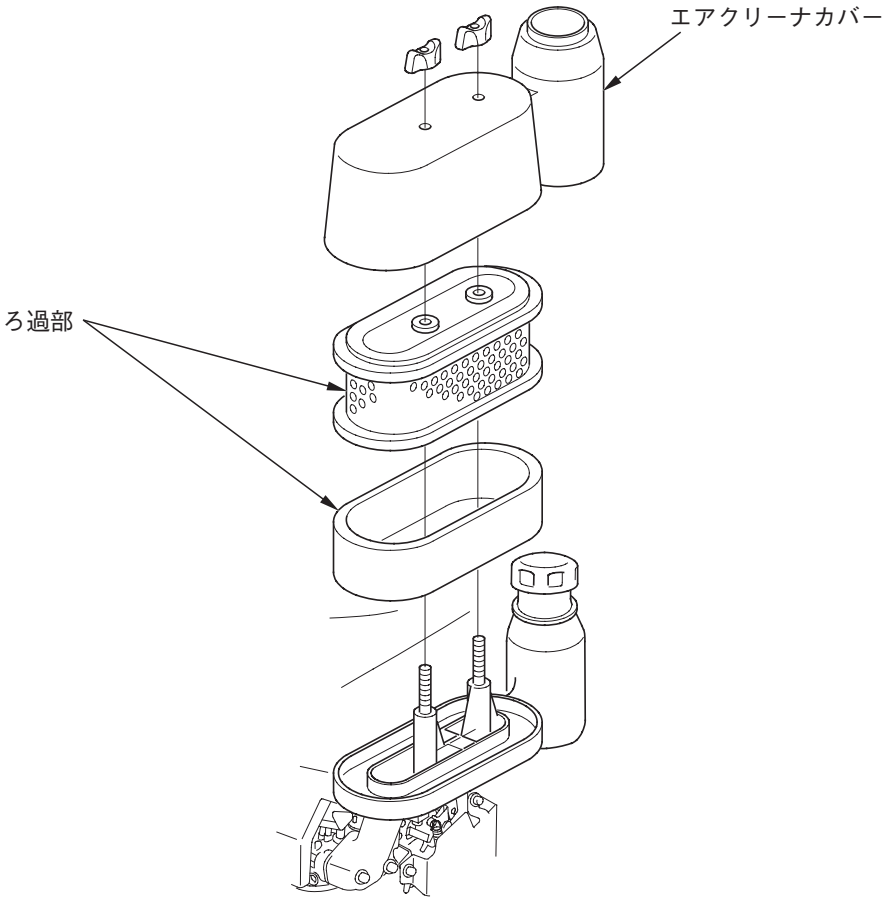
《補給》
使用燃料：無鉛ガソリン
- 給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。
- 補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

取扱いのポイント

- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エアクリーナ(空気清浄器)の点検

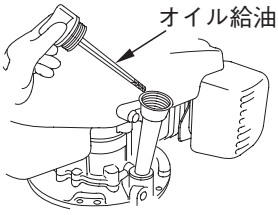
・エアクリーナカバーを外し、ろ過部(ウレタン、紙製)が汚れていないか、点検します。
・汚れている場合は清掃してください。(清掃方法は11頁参照)
・汚れているとエンジン性能が低下します。

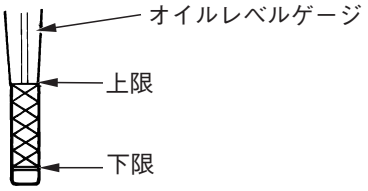


エンジンを始動する前に点検しましょう

エンジンオイルの点検

《点検》
・エンジンを水平にしてオイル給油キャップの回りを清掃します。
・オイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルを拭取ります。
・オイル給油キャップをねじこまずにオイル注入口に差し込み、上限までオイルがあるか点検してください。

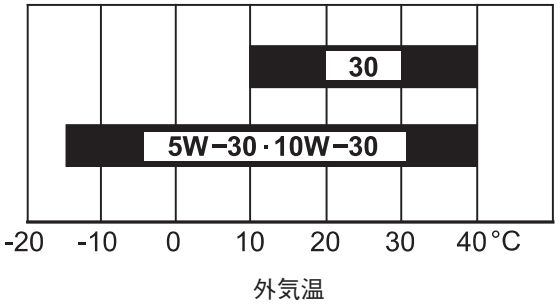




《補給》
・不足している場合は、新しいオイルをオイルレベルゲージの上限まで補給します。
・汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は12頁参照）

《推奨オイル》 Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルを
ご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを
表にもとづきお使いください。



取扱いのポイント

・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エンジンのかけかた

⚠警告

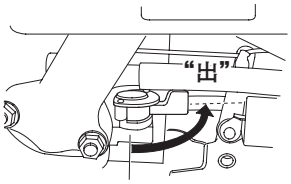
・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

かけかた

1

燃料コック

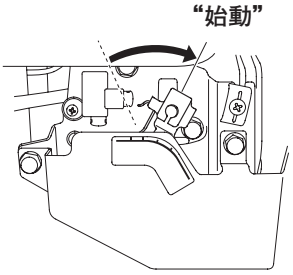
・燃料コックレバーを**“出”**の位置に合わせます。



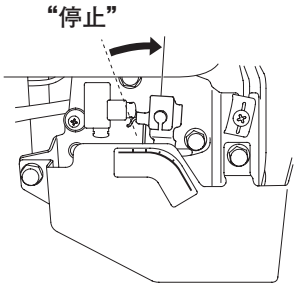
2

コントロールレバー

・コントロールレバーを**“始動”**の位置にあわせます。



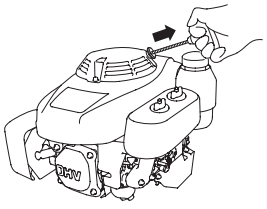
・エンジンが暖まっているときはコントロールレバーを停止の位置から矢印の方向に少し動かします。



3

始動グリップ

・作業機側の安全な部分をしっかり押さえ、始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



取扱いのポイント

・始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
・運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

4

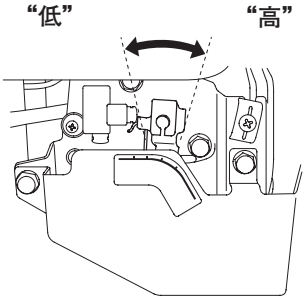
始動

・2～3分間暖機運転を行ってください。

5

コントロールレバー

・コントロールレバーを、使用する回転数に調整します。

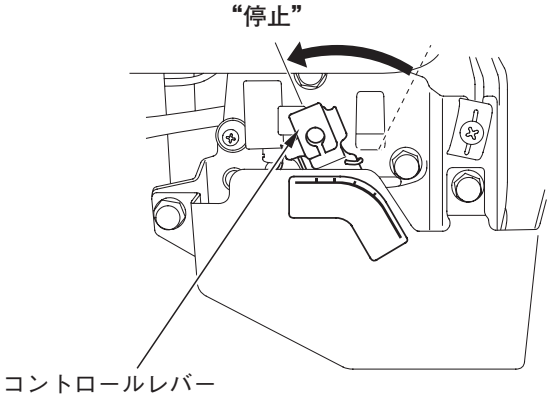


エンジンのとめかた

1

コントロールレバー

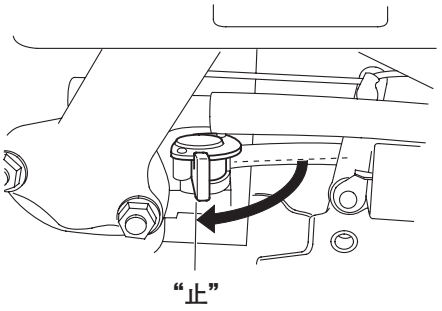
・コントロールレバーを矢印の方向に**“停止”**の位置までいっぱいに戻します。



2

燃料コック

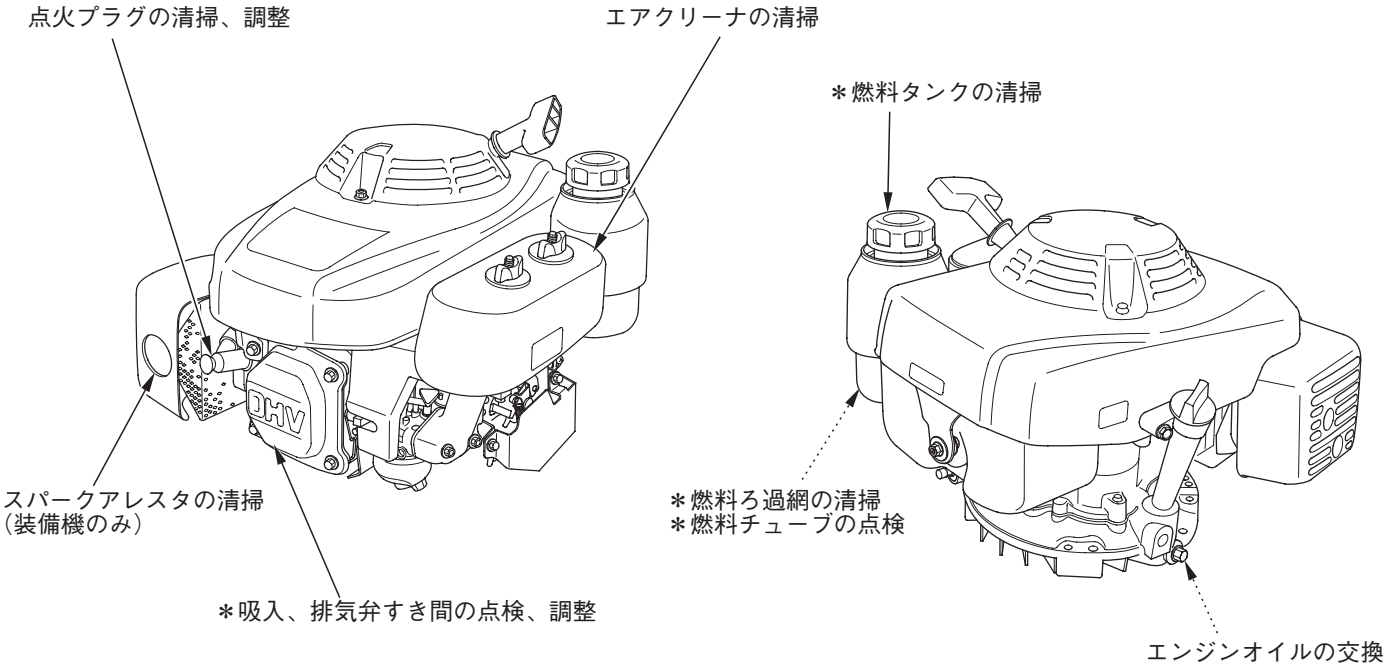
・燃料コックレバーを**“止”**の位置に合わせます。



手入れのしかた

⚠警告

- 点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。



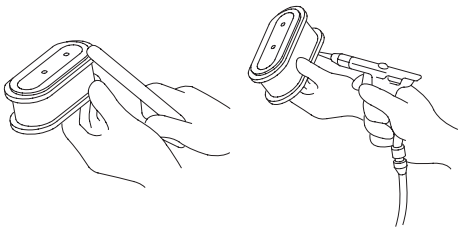
＊の項目は販売店で実施していただく点検、整備です。

エアクリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エアクリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。
《**清掃時期**》…… 3 か月毎または50時間運転毎
ほこりの多い場所で使用した場合は10時間毎または 1 日 1 回清掃してください。
《**交換時期**》…… 1 年毎または200時間運転毎(紙ろ過部)

紙ろ過部の清掃

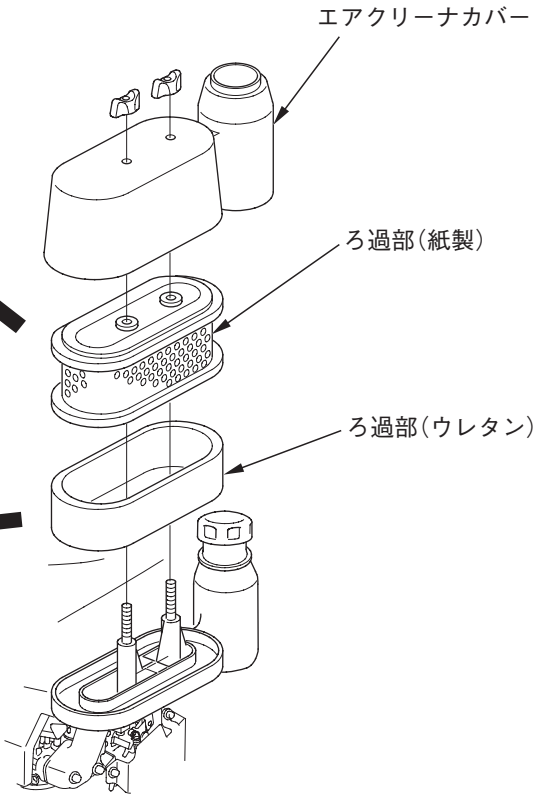
・内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。



ウレタンろ過部の清掃

・ろ過部(ウレタン)は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。

洗い油または水で薄めた中性洗剤で洗う → 布で包み押しつぶすようにしぼる → 乾かす → 新しいエンジンオイルに浸す → 布で包み押しつぶすようにしぼる



⚠警告

・洗い油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
・清掃は換気の良い場所で行ってください。

取扱いのポイント

・エアクリーナを外した状態でエンジンを運転しないでください。エンジンが早く摩耗する原因になります。
・オイルをつけすぎないように注意してください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

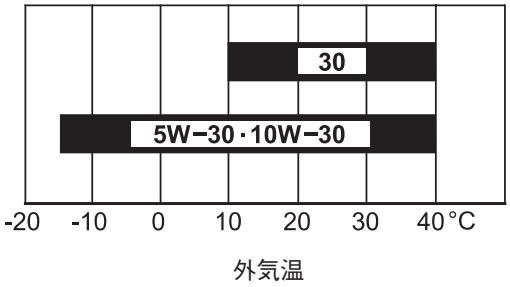
⚠注意

・エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

《交換時期》……初回：1 か月目または20時間運転目、以後：6 か月毎または100時間運転毎

《推奨オイル》 Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

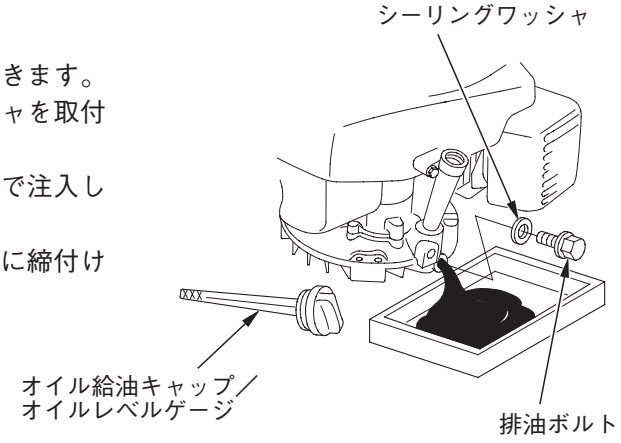
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《オイル容量》 0.65 L

《交換方法》

1．オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2．排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリングワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
3．新しいエンジンオイルをオイルレベルゲージの上限まで注入します。
4．注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



取扱いのポイント

・交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
・外したシーリングワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリングワッシャを使用してください。
・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

点火プラグの点検・調整・交換

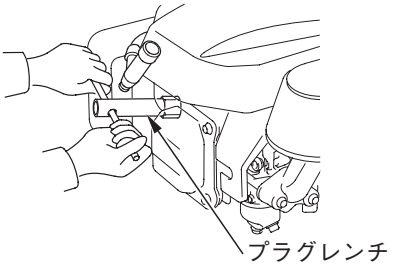
電極が汚れていたり、プラグすきまが不適当な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

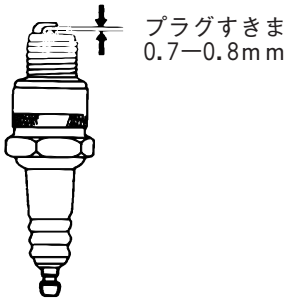
・エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《点検・清掃時期》…… 6か月毎または100時間運転毎
《交換時期》…… 1年毎または200時間運転毎

《清掃》
1．点火プラグキャップを外して、プラグレンチで点火プラグを取外します。
2．汚れている場合はワイヤブラシ等で側方電極部を清掃してください。
※プラグレンチ、ワイヤブラシは別売りです。



《点検・調整》
・側方電極を曲げて、プラグすきまを下記寸法に調整します。
プラグすきま：0.7－0.8 mm
取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチ、プラグレンチハンドルで確実に締付けます。プラグキャップを確実に取付けます。



《指定プラグ》
BPR5ES(NGK)　　W16EPR-U(DENSO)

取扱いのポイント

・故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、はじめに指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
点検調整後はプラグキャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

スパークアレスタの清掃(装着機のみ)

⚠注意

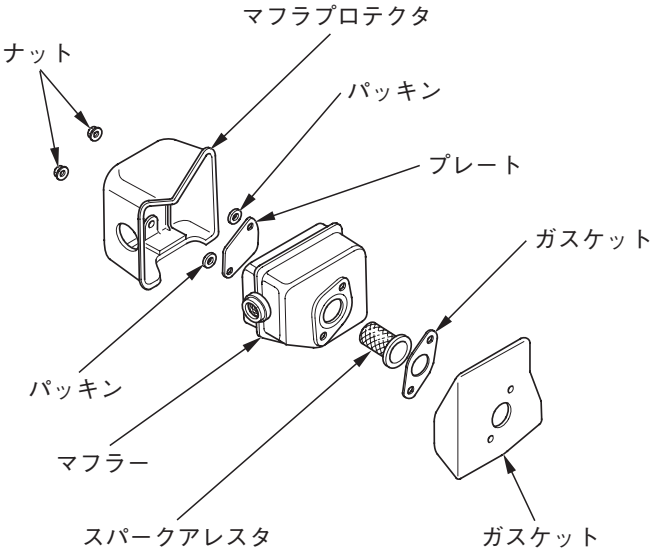
・エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《清掃時期》……6か月毎または100時間運転毎

《清掃》

1．6mmナット2本を外し、マフラプロテクタ、プレート、マフラ、ガスケットを取外します。

2．マフラからスパークアレスタを取外します。



3．スパークアレスタを目視で確認し、目詰まりがないことを確認します。目詰まりがある場合はワイヤブラシ等でスクリーンを清掃してください。

4．逆の手順でガスケット、スパークアレスタ、マフラ、プレート、パッキン、マフラプロテクタを取付けます。

販売店で実施していただく点検整備項目について

この取扱説明書に記載されているお客様ご自身で行っていただく点検、整備項目のほかに、お買いあげ販売店で定期的に実施していただく項目があります。お買いあげいただきましたHondaエンジンをいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

販売店で実施する定期点検整備項目

・吸入、排気弁すきまの点検・調整……1年毎または200時間運転毎実施
・燃料タンク、燃料ろ過網の清掃……1年毎または200時間運転毎実施
・燃料チューブの点検……2年毎(必要なら交換)
・アイドリング回転の点検・調整……1年毎または200時間運転毎実施
・フライホイールブレーキパッドの点検(装備タイプのみ)……初回:1か月目または20時間運転目、以降:6か月毎または100時間運転毎実施
・燃焼室の清掃……250時間運転毎(注)

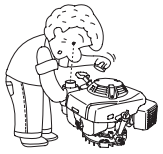
(注) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。

エンジンがかからないとき

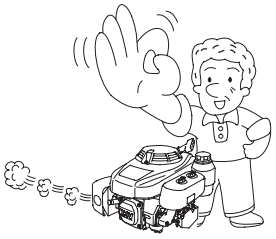
①ガソリンは十分に入っていますか?



- 入っていない場合は補給してください。

②エンジンオイル量が不足していませんか?

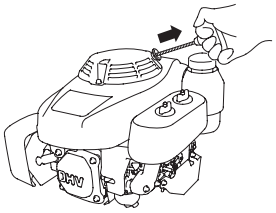
- 少ない場合は口元までエンジンオイルを入れてください。



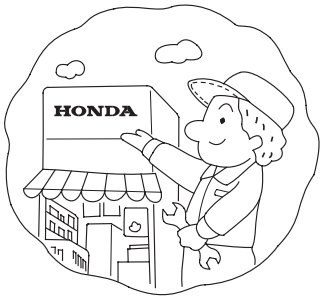
OK

③圧縮圧力は十分ですか?

・始動グリップをいきおいよく引いて、異常に軽い場合は、圧縮が洩れている可能性があります。

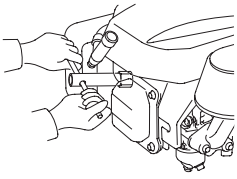


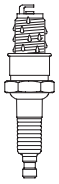
NO



OK

④点火プラグがぬれたり、汚れたりしてませんか?

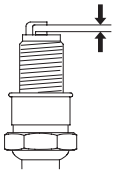




- ぬれているときや汚れているときは清掃するか新しいプラグと交換してください。

⑤点火プラグのすきまは正しいですか?

・プラグすきまは0.7−0.8 mmです。



- すきまが正しくないときは調整してください。

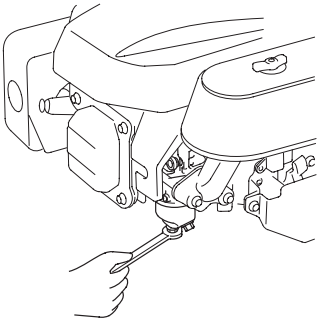
NO

・お買いあげの販売店にお申しつけください。

⑥点火プラグを取付けて再度始動してください。

長期間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しない時は、タンクとキャブレータ(気化器)内のガソリンを抜いてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップをプラグから取外します。



⚠警告

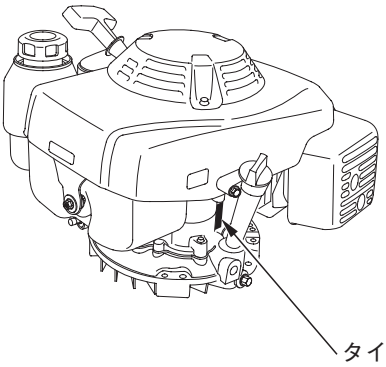
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- ガソリンを抜くときは
  - ・火気を近づけないでください。
  - ・換気の良い場所で行ってください。
  - ・ガソリンはこぼさないように抜いてください。
  - ・万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。

- 始動グリップを引き、重くなったところで止めます。
- 燃料タンク、キャブレータ(気化器)内のガソリンを抜きます。
- エンジンオイルを交換します。
- ビニール等でカバーをします。
- 湿気、ホコリの少ない所に保管してください。

取扱いのポイント

- ・次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- ・オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。
  (6か月に1回新しいオイルと交換)

タイプとエンジン号機の表示位置



主要諸元

寸法はN1クランク使用機の数値です。

名　称	GXV160H2
型　式	GJAAH
全　長	420 mm
全　幅	365 mm
全　高	353 mm
乾燥質量（重量）	15.0 kg
形　式	空冷4サイクル立軸ガソリン(OHV)
総排気量	163 cm^3
連続定格出力／回転速度	2.0 kW (2.7 PS)/3,000 rpm
最大出力／回転速度（SAE J1349に準拠*）	3.2 kW (4.4 PS)/3,600 rpm
最大トルク／回転速度（SAE J1349に準拠*）	9.6 N·m (0.98 kgf·m)/2,500 rpm
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	1.4 L
点火方式	トランジスタ式マグネトー点火
始動方式	リコイルスタータ

＊ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（最大出力）、2,500rpm（最大トルク）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

※諸元は予告なく変更することがあります。

HONDA
The Power of Dreams

Honda汎用製品についてのお問い合わせ･ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速
にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、
ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

30Z1V610
00X30-Z1V-6100

Ⓢ

©2003 本田技研工業株式会社